

介護福祉士養成施設教育におけるグリーフケア教育の必要性について ー学生アンケートを通じてグリーフケア教育について考えるー

キーワード：グリーフケア、看取りケア、介護福祉士養成施設教育

○藤原秀子¹⁾
同朋大学大学院¹⁾

I 目的

介護福祉士養成施設（以下、養成校とする）での看取りケア教育は「介護」「こころとからだのしくみ」の領域で終末期の介護に関する内容が組み込まれており、その多くは技術的な内容となっている。介護職員に対するグリーフケアに関する内容は、最新介護福祉士全書¹⁾によれば、「介護職員が燃え尽き症候群にならないように自分の思いを他者と分かち合う必要がある」と記載してあるのみである。そのため、学生自身の死生観の涵養を踏まえたグリーフケア教育についてはまだまだ不十分だと思われる。また、介護実習は1年次から組み込まれている養成校が多く、その実習中に看取り体験を経験し実習に行けなくなった学生もいるため、早い段階からグリーフケア教育を実施する必要があると考える。

本研究では、入学直後の学生が、看取りへの不安や死・生についてどのように考えているのかを把握することを目的とし、今後の養成校でのグリーフケア教育の基礎資料とする。

II 方法

- 1) 対象者：A県とB県の介護福祉士養成施設（4年課程）2校の1年生54名を対象とした。
- 2) 調査期間：2015年4月
- 3) 調査方法：質問紙による集合調査を無記名で実施した。
- 4) 調査項目：①基本属性（性別）、②死との対面、③人が死んだらどうなるのか、④生きるとは、⑤親しい人が亡くなった時の感情、⑥親しい人を看取ることへの不安、⑦就職してから看取りを行う事への不安、⑧看取りを行うとき、どのような心構えが必要かの設問を設けた。③④⑤⑧の項目は自由記述とした。
- 5) 分析方法：各項目について集計し各割合を求めた。自由記述は同じ意味内容の記述を集め概念を生成した。
- 6) 倫理的配慮：学生に対し調査の目的、成績への評価に影響しないこと、個人が特定されないことを書面で説明し同意を得た。

III 結果

有効回答率91.1%であった。性別は男性が49.2%、女

性は57.1%であった。親しい人（3親等以内）の死に対面したことがありますかでは、あると回答した学生が73%であった。そして、人が死んだらどうなるのかという自由記述では「宗教的な考え」「生物的な考え」「想像できない」「感情的な考え」の4項目、生きるとはの問いでは「感情的な考え」「生物的な考え」「宗教的な考え」「その他」の4項目、親しい人が亡くなったとき、心にどのような感情が現れると思いますかでは「悲嘆」「無感情」「感謝」「後悔」「不安」の5項目にカテゴリー化することができた。そして、親しい人を看取ることの不安がありますかでは、不安があると回答した学生が83.7%となり、学生自身が就職してから看取りを行う事への不安があるかでは、79.6%があると回答した。次に、看取りを行うとき、どのような心構えが必要となるのかでは「スピリチュアル的な事」「技術的な事」「分からない」の3項目にカテゴリー化することができた。

IV 考察

本調査から学生は死と生について自分なりの考えを持っていると思われる。また、近親者との死別体験による心の感情について悲嘆や後悔等が記載されていた。その感情に気づかず日常生活を過ごしていくことで、他者との関わりが精神的負担になり、やがては身体的な疾患に結びつく可能性がある。学生の約8割が看取りケアに対して不安を抱えているため、介護士として利用者の死とどのように向き合い、自分の感情の対処方法を学ぶ必要がある。また、看取りケアを実施するためには技術だけではなく、死生観や精神的なスピリチュアルに関する内容について養成校で学ぶ必要があると思われる。

V 結論

学生が介護実習中や将来、介護士として看取りを体験していくなかで、燃え尽き症候群に陥らないようにするために養成校でグリーフケア教育の実施が求められる。

引用文献

- 1) 川井太加子. 最新介護福祉士全書 第6巻 生活支援技術Ⅱ. メヂカルフレンド社. 2015. p275